

ひので映画大使 映写室見学会と映画鑑賞会

ひので映画大使「映写室見学会と映画鑑賞会」を開催しました！

さる5月15日(火)、ワーナー・マイカル・シネマズ日の出で、「ひので映画大使の映写室見学会」を開催しました。普段、見る事の出来ない映写室の見学会とあって、映画の強者で知られる13人のひので映画大使も興味津々！

今回、案内役にワーナー・マイカルの映写室に勤務される、嶋貫さんをお願いしました。映写機の使い方や、フィルムの説明、デジタル化の進む映写技術についてなど、とても丁寧に説明していただきました。また、ひので映画大使からの質問にも答えていただき、とても充実した見学会になりました。

今後も、大使の方が満足するイベントを開催していく予定です！



見学会の後、映画『虹色ほたる』を試写会で鑑賞しました。 映写室見学会にて

ひので映画大使！「映写室見学会」の感想！

・初めて映写室見学会に参加して、映画が上映されるまでの流れや、準備等、スタッフの皆様の御苦勞を知る事ができ、とても勉強になりました。

・テープのつなぎ方を手動で行う技にはビックリ。早くデジタル化になれば仕事が楽になるのに…。細かな説明で勉強になり、参加して良かったです。

・昔に比べ、映写機などは進歩しても、肝心の所は依然、人の手で行われていると知り、改めて1本1本を大切に鑑賞しようと思いました。貴重な経験をさせていただきました。

・昔の映写室とは比べものにならない変化！

・思っていた感じとは大分違って、勉強になりました。従業員の方のご苦勞があって、映画を楽しめていると思います。

・思っていた以上に大きな機械でびっくりしました。感動したり、ワクワクしたり、楽しんでいる陰で支えて下さっている映写室のスタッフに感謝です。見学出来て良かったし、学ぶ事は喜びですね。わざとフィルムに傷つける監督がいると聞いた事があります。興味深いですね。

・フィルム24コマで1秒に対し、3Dは144コマと聞いて驚きました。

・フィルムが一本に継がれていることを初めて知りました。これならば映写機は一台でよいわけで、フィルムの巻き戻しも不要であり、合理性を感じました。

・デジタルは特に音、映像が幅広いと聞き、今後の作品にどう変化していくか、とても楽しみです。

・裏方さんの仕事を聞かせてもらい、有意義でした。フィルムの場合、映写しながら同時に巻き戻しができるなんて、知りませんでした。

・フィルムの中に音も入っている事を知りました。アナログからデジタル時代へと移行していくんですね。

ワーナー・マイカル・シネマズ日の出 渡邊総支配人からの「ひとこと」！

ワーナー・マイカル・シネマズ日の出では、平成24年7月から、映画が完全にデジタル化されます。

旧作上映でフィルムの場合もありますが、基本としてデジタル映画になるので、フィルムの編集がなくなります。



フィルムのここに音声入ってます(えっ?驚o!!)

今後も、ワーナー・マイカル・シネマズ日の出は、日の出町内の映画館として、町民の皆さまと、映画文化の普及に力を入れてまいりますので、よろしくお願いいたします。

映画大使事務局より...

お茶の間のテレビが、地上波デジタルに移行してはや1年。身の回りのさまざまなモノがデジタル化されてゆくなか、現代芸術といわれる映画の世界でも、デジタル化が行われていくのですね。フィルムが減っていくのは、少しさみしいような気がします。

さて、今回の映写室見学会では、ひので映画大使も、驚きの連続！未知との遭遇に大興奮！の見学内容となりました。ご協力いただいた、嶋貫さん。本当にありがとうございました！



ここから先は秘密です..

● ひので映画大使！「映画鑑賞会『虹色ほたる』」の感想！

ストーリー

小学6年生のユウタは、夏休みに一人、思い出の山奥に出かけるが、突然の豪雨で足をすべらせ、意識を失ってしまう。目を覚ますとダムに沈んだはずの村が…。どうやら30年前にタイムスリップしてしまったらしい。その村で一か月を過ごさなくてはならなくなったユウタ。村の子供達との出会いの中、ユウタのもう一つの夏休みが始まる！



(C)川口雅幸/アルファポリス・東映アニメーション

・アニメの特性が良く活かされた傑作だと思います。山の傾斜、地形の起伏、該当のない夜の暗さなど、画面からリアルに伝わってきました。そして、生きることを肯定する、力づくでまっすぐなメッセージ。心揺さぶられました。

・ファンタジーの様だけど、切なくて、また、どこか懐かしい感じでした。

・ホタルが好きなので、良かったです。今は失われてしまった風景がたくさん見せてもらった気がしました。小河内ダムの下に沈んだ集落も、画面のようだった気がします。

・沢山のホタルが飛び交う、幻想的な風景。あの素晴らしいシーンが脳裏から離れません。子供達の絆。懐かしい思い出。あの時代にずっと止まっていたほしいと思いました。

・母が奥多摩のダムの近くの出身で、ダムのできる以前にあった集落の事をよく聞かされていたので、懐かしく感じました。子供の頃行った祖母の家を思い出しました。自分の子供と一緒にまた見たいと思いました。

・ユウタとさえ子の絆がとても感動しました。私もホタルの様に輝くために磨いて、でも私らしさを忘れずに「今を生きて」いきたいです。終始、登場人物の「瞳」が感情を物語っていて、そこがアニメーションでしか描けない素晴らしい所だな、と思いました。

・大人も楽しめる良い映画でした。小さい子にはナレーションがないと理解できないのでは…。

・63歳の私が子供だった頃の、田舎のおばあちゃんの家へ行ったような懐かしさを覚えました。自然の描写が美しかったです。人物は簡素に描かれていましたが、返って自然のリアル感が増えて良かったです。美しい風景や自然は後世に残すべきと強く思いました。

・初めてホタルが飛び交う場面で、何に感動したのか自分でもわからず、涙があふれました。子供達や大人にも、生命の重みや、生きている事の意味、生きる事が実は素晴らしい事なんだと感じられる、素晴らしい作品です。昆虫取り、花火、出店、夏祭り、子供達の友情、ほんわか初恋、日本の本来の姿にも感動！

問合わせ先: 文化スポーツ課社会教育係

電話042-597-0511(内線541)

◀ 前のページへ戻る | ページトップへ ▶